

大人用紙おむつの評価に関する国際規格が発行されました。 ～ 日本の排泄ケアの方式と製品の普及促進が期待されます ～

一般社団法人 日本衛生材料工業連合会(会長:高原豪久)は、ISO/TC173のSC3 専門委員会において、2013年に日本が提案したISO15621「大人用紙おむつの評価方法に関する一般的指針」の改定案が、国際規格として承認され、ISO15621-2017 (Absorbent incontinence aids for urine and/or faeces – General guidelines on evaluation) として発行されましたのでご案内いたします。

ISO15621「大人用紙おむつの評価方法に関する一般的指針」では、排泄ケアにおける大人用紙おむつの評価指針を定めています。欧米など各国の病院・介護施設などで活用されている指針です。身体状況や生活環境に合わせて紙おむつを選択し使用する日本の方式と製品が適合するよう日本から働きかけてまいりましたが、今般、国際規格「ISO15621 改定版」に反映され、発行されました。これにより我が国の企業の強みを活かした排泄ケアの評価が高まると期待されます。

背景

介護は、国・地域の文化や生活習慣の違いから多種多様です。三大介護の一つ、「排泄ケア」も日本と欧米では、大人用紙おむつの使い方がそれぞれ存在します。

大人用紙おむつに関する国際規格 ISO15621 は、介護される方(着用者)、介護する人(病院・介護施設)の排泄ケアの指針として紙おむつの選択から廃棄、費用、環境影響まで網羅し規定化されたものです。欧米などの各国の病院・介護施設などでは購買担当者や介護担当者がこの ISO の指針を参考に紙おむつの選択や排泄ケアの標準化に活用しています。しかしながら既存の ISO 指針は、欧米での排泄ケアを前提としていることから日本で普及しているパッド(インナー)を使用した「ツーピース方式」やパンツタイプの使用などが規定の前提ではない為日本の方式は排泄ケアの選択や製品の選択には至らない環境でした。

介護される方、介護する方、夫々の課題を解決してきた日本の排泄ケアの方式と製品が ISO の指針に盛り込まれることで高齢化が進むアジアなど各国で普及が始まっている日本の排泄ケアの方式の普及を支えることができ、ひいては日本の排泄ケアの選択が世界の高齢化対策の参考となると考え、指針改定の提案に至りました。

経過

2013年に国際標準化機構(ISO)に提案し、各国専門家の審議、各国の投票を経て、2017年版として発行されたものです。

規格の概要

改定版では、介護される方の視点、製品機能の視点、介護する方(介護者・施設・病院)の視点、評価の視点で、吸収用品の定義の見直しをはじめ大人用紙おむつ製品の種類、適用、考え方などを改定しています。改正の主なポイントは以下の通りです。

- 介護される方の尊厳を保つ事をベースとする評価指針である事を規定
- 紙おむつ(テープ止めタイプ、パンツタイプ)とパッド(インナー)の併用を規定
- 身体状況にあわせて紙おむつを選択する要素を規定
- 上記の新たな規定により費用と廃棄量削減につながることを新たに明記
- 吸収量で紙おむつを評価する考え方などを改定

期待される効果

大人用紙おむつは「テープ止めタイプ」と「パンツタイプ」に分類されますが、欧米ではテープ止めタイプが主に使用され、交換する方法が一般的です。他方、我が国では、テープ止めタイプに加えて、パンツタイプは自力での着脱が可能なことから自立排泄に貢献するとして両方のタイプが採用されています。また費用や介護労力軽減、資源の有効利用、廃棄量削減及び着用者の快適性の観点から、容易、かつ頻繁な交換を可能とするよう両タイプともパッド(インナー)を使用した「ツーピース方式」としての利用が主流です。

漏れにくく、安価で省資源、介護労力も軽減され、尊厳の尊重もされると評価されている日本の排泄ケアの考え方は、海外、なかでも急速に高齢化を迎えるアジア等新興国において国際規格をもとに日本企業の強みを活かした介護分野での提案ができ、また高齢化先進国である日本の排泄介護が世界の高齢化対策の参考になると期待されます。

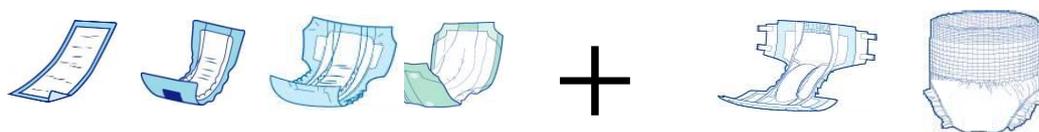
以上

※解説

※パッドタイプを併用したツーピース方式(テープ止めタイプ、或いはパンツタイプと併用)

※パッドタイプ

※テープ止めタイプ ※パンツタイプ



※身体状況に応じてテープ止めタイプ、パンツタイプ を選択

